
天国への手紙

サキ ム(*' `*)ノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天国への手紙

【Nコード】

N62970

【作者名】

サキヅ（＊・、＊）ノ

【あらすじ】

僕のこれからの人生に
楽しみはありますか？？

好きな人と笑って・・・泣いて。
これからの人生をもう一度楽しめる
チャンスはありますか・・・？

・・・僕はあるとき自分を見失っていた。。。

大切な人を失った悲しさ、苦しさ。
そして、周りの人の優しさ。

この作品を読んで少しでも共感してくれと
嬉しいです！^^

（前書き）

これは、私の第一作品目です（＊、＊、＊）
多少読みにくい部分があると思いますが、最後まで
読んでくれると嬉しいです！！

中傷などはいりません。

感想などお待ちしています！^^

僕のこれからの人生に

楽しみはありますか？

好きな人と笑って・・・泣いて。

これからの人生をもう一度、楽しめる
チャンスはありますか・・・？

・・・僕はあるとき、自分を見失っていた。

—— 3 年前 ——

「優人！大好きだよ！！」

「僕もだよっ！」

僕はそのとき、彼女がいた。

木村希・・・。

僕は彼女が大好きだった。

でも、その気持ち彼女を傷つけていたなんて

その時は、知らなかった。

ごめんね、希。

僕は、どうかしてたんだね。

「希！どうして！？なんで、他の男なんかと仲良くしてんだよ！」

「ごめんなさい。。」

「そんなに、そいつが いいなら そいつと ずっと いろよ!!」
「まってよ!!」

僕は、希のことなんか、無視してその場を立ち去った。
ただの嫉妬だった。

家に帰ると、希からメールが来てた。

ごめんね。もう他の子とは仲良くしないから！

けど・・・、僕は返信することが出来なかった。
携帯を開いたまま、ただただ泣きじゃくった。

好きだった、大好きだったのに・・・。

でも、好きだったから君から離れたんだ。

今まで来ていた希からのメールも電話も、1週間後
には、来なくなった。

でもね、希がいないと涙が止まらないんだ。
一人になるとどうしても考えちゃうよ、希のこと。

やっぱり僕は甘えん坊でわがままなんだね。

自分から離れたのにすぐ希と一緒にいたいって思っちゃうよ。
だから、もう一度だけ希にメールを送ります。

希、この前は急に怒ってごめんね？

僕は、今も、これからも希とずっと一緒にいたい。
だから、希の返事を聞かせてください。

でも、1週間、2週間たっても希からの

返事は来なかった。

ある日の夜、僕のケータイに電話があった。

「公衆電話」

僕は誰かな？と思いながらもその電話に出た。

「はい、もしもし？どちら様ですか？」

「夜遅くにすいません、希の母です。」

その瞬間、嫌な予感が体を駆け巡った。

希のお母さんから電話をかけてくるなんて
めずらしいからだ。

「はい、どうしましたか？」

「希は、今○×病院に入院しています。」

「えっ・・・希になにかあったんですか!？」

「希から、なにも聞いてないんですね。。。」

希は小さい頃から心臓が弱くて、数日前に倒れたんです。」

「・・・希は大丈夫なんですよね？」

「・・・まだ意識を取り戻してません。・・・すいません。・・・
ツーツーツーツ。」

希が倒れた・・・？

そんなはずないよ・・・。

次の日、僕は○×病院に行った。

203号室・・・。

コンコン。

「はい？」

「木村希さんの病室はここですか？」

「はいそうですよ、でもまだ意識を取り戻してません。」

「入ってもいいですか？」

「はい、どうぞ。」

「どうも。」

僕は病室に入った。

目の前には、ベッドに横になっっている彼女。

彼女を見た瞬間、僕の目からは大量の涙が

でてきたよ・・・、ごめんね、希。

僕そんなことも知らないで、希にたくさんひどい事
言っただね。

だから、希が意識を取り戻す前に僕は君から離れるよ。
今度こそ、ちゃんと離れる。

希には幸せになってほしいから、僕よりちゃんとした、
希を一生守ってくれる人と幸せになってください。。
今までありがとう。そして、お疲れ様でした。。。

そう、手紙を残して僕は病室をでた。

それからの僕はもう自分じゃなくなっていた。
今までの自分はいなくて。

何をやっても失敗ばかりでやる気を失せていた。
そこから、僕は悪の道へと入っていった。。。

今まで黒だった僕の髪は茶髪でいまどきっぽくなっていた。
未成年なのにタバコを吸ったり、酒を飲んだり。
自分ではわかってたけど、やめられなかった。。。

でも、こんな僕を救ってくれた人がいる。
高木友里ちゃん。。。

こんな僕のことを本気で怒ってくれた。
友里ちゃんは、どこか希に似ていて。。。
そして、そんな友里ちゃんに引かれていく自分が怖かった。
今の自分は否定することができなかった。

誰かにそばにいてほしくて、ひとりが嫌だった。

そして少しずつ今までの自分に戻っていった。

でも、友里ちゃんを希と重ねてみている自分に苛立った。

希のことは忘れたい．．．。

けど、そう思えば思うほど忘れれないよ。

逢いたいよ．．希に逢いたい。

だから、希を忘れるために友里ちゃんと付き合うことにした。

ごめんね、友里ちゃん。希。

——現在——

僕は、20才になった。

そして今も友里と付き合っている。

希のことは、今も忘れていない。

けど、今は本気で友里が好きだから、辛い思いはしてない。

そんなある日僕のところに一通の手紙が届いた。

希の母です。そう書かれた手紙が来た。

手紙にはこう書かれていた。

久しぶりです。お元気でしたか？

報告があつて手紙を書かせていただきました。

希は、○月×日に亡くなりました。

今まで、希を支えてくれて有難うございました。

そんな、嘘だ．．．。

もう、希はこの世にいない．．．??

信じられないよ、嘘だって言ってる．．．。

でも、もう希の場所には戻らない。

希と約束したから僕は、泣かないよ。

でも、ひとつだけひとつだけ教えてください．．．。

希は．．．希は僕と過ごした人生を後悔していませんか？？

こんな僕と過ごした人生に幸せを感じましたか？？

僕は、希と過ごした人生を幸せに過ごせました．．．！

ほんとにありがとう、そして．．．お疲れ様でした。

だから僕は手紙を書きます。

希と過ごした人生を描く手紙を．．．天国へ。

（後書き）

最後まで読んでくださって有難うございました！！

私の第一作品目はいかがでしたか？？

少しでも共感してくださればうれしいです。

ご感想など、お待ちしております^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6297o/>

天国への手紙

2010年11月1日00時09分発行